

<目標、行動計画>進捗確認シート

提出日:2017年2月23日

2021年度に向けた教育研究目標

教育研究目標4「総合的な学生支援の実現」

主管部局	学生活動支援機構 (総合支援センター)	担当部局	学生活動支援機構 (総合支援センター)
------	------------------------	------	------------------------

【(1)総合的な学生活動支援の拡充:①学生相談や発達障がい、障がいを持つ学生への総合的な支援体制の拡充・整備】

(タイトル)
①-(a) 学生支援相談室の面談環境の改善

(狙い内容)
西宮上ヶ原・西宮聖和キャンパスにおいて学生数の増加等に伴い、面談数の増加など面談環境は劣悪になってきている。このことを解消するため、面談環境の改善を図っていく。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)
西宮上ヶ原・西宮聖和キャンパスにおける本学の学生数及びカウンセラー数に見合った面談環境の整備する。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価		変更有無
評価指標	西宮上ヶ原・西宮聖和キャンパスにおける学生支援相談室の面談環境を整備するため他大学等にヒアリングを行いその状況を踏まえ新たに立案・実施していく。 <変更時記入欄>	有(無)
評価尺度	A: 面談室の確保 B: 関係部局に対する必要性の理解を促す C: 他大学へのヒアリングを含め面接環境の調査 D: 現状のまま <変更時記入欄> A: B: C: D:	

3. 年度毎の目標値

								変更有無
		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2015年度(計画策定時)		D	C	C	B	B	B	A
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D	<実績> D	実績	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> C				
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> 検討できず		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 他大学に調査及び報告を行った				

【2016年度の進捗状況について】 ←

今年度については、関西の大学(7大学 関西・同志社・立命・龍谷・京都産業・近畿・甲南)、関東の大学(立教・法政・明治・中央)に訪問し、各大学の状況を確認し、総合支援センター連絡会に報告を行った。特に本学の面接室の脆弱さが浮き彫りになり、今後の改善が必要であることについて認識がされた。今後は、必要面談室数を踏まえ、実現に向け検討を重ねていく。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → **はい**・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:
②今後必要な取組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年2月6日公示

- ・(1)は、大学のユニバーサル・アクセスを可能にし、全ての学生の円滑な修学を可能にし、学生生活を守るための相談活動や施策といえます。いずれも重要な課題であり、大学における受益者は学生であるという視点に立った整備充実を期待したいと思います。(A)
- ※(1)①-(b)「学生による自傷他害などの緊急事態への対応及び多様化する発達障がいのある学生への対応」、(1)①-(c)「障がいを持つ学生への支援体制の拡充」の第三者評価(案)のコメントと重複
- ・他大学の事例を視察して改善を試みる動きは評価できます。(B)
- ・学生相談は現時点でも、すぐに必要な機能であるため、関学の体制の脆弱性が明確になったのであれば、至急、対策を取るべきであると考えられます。(C)
- ・面談環境の改善を目指し、早い時期に数値目標などが設定されることが望まれます。(E)
- ・最終目標実現の設定時期が遅くないか検討が期待されます。(F)
- ・面談室の増加が急を要するのであれば、その必要性を大学区執行部、評議会に早く提案することが必要です。(G)
- ・根拠となる基本データについて、学生数と相談件数とが同じ比率で増加しているのか、あるいは学生数に対する相談件数が増加しているのかなど、具体的な分析も示されることが期待されます。(H)

主管部局	学生活動支援機構 (総合支援センター)	担当部局	学生活動支援機構 (総合支援センター)
------	------------------------	------	------------------------

【(1)総合的な学生活動支援の拡充:①学生相談や発達障がい、障がいを持つ学生への総合的な支援体制の拡充・整備】

(タイトル)
①-(b) 学生による自傷他害などの緊急事態への対応及び多様化する発達障がいのある学生への対応

(狙い内容)
自傷他害などの緊急事態や多様化する発達障がい学生支援の内容検証については、総合支援センター委員にサポートいただいている。しかし、各センター委員は兼担であるため、常に必要な支援・指示等が可能とは限らない。そのことを解決できるように検討する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)
自傷他害などの緊急対応や発達障がい学生支援を迅速に行えるような体制作りを検討及び実施する。
<変更時記入欄>
<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価				変更有無
評価指標	他大学における緊急対応のための体制や人事を検証し、新たな体制に対する提案・検討を行い、それを実現するため大学に提案・実施。	評価尺度	A: 新たな体制の実施 B: 新たな体制を検討 C: 他大学へのヒアリングを実施 D: 現状のまま	有(無)
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A: B: C: D:	

3. 年度毎の目標値								変更有無
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	有(無)
2015年度 (計画策定時)	D	C	C	B	B	B	A	
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D D <実績>	実績 C <2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標>	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標>					
見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績> 検討できず		<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> 他大学への調査及び 報告を実施					

【2016年度の進捗状況について】
今年度については、関西の大学(7大学 関西・同志社・立命・龍谷・京都産業・近畿・甲南)、関東の大学(立教・法政・明治・中央)に訪問し、各大学の状況を確認し、総合支援センター連絡会に報告を行った。特に他大学の多くは、カウンセラーの上に上級のカウンセラー(例:主任カウンセラー)や精神科医が常勤ないし毎日配置し、いざという時の対応をしている。本学においても今後検討が必要であろうと思われる。今後については、行動計画を1年前倒し、実現に向けて迅速に対応していく。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい・ いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>
①理由:
②今後必要な取組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年2月6日公示

- ・(1)は、大学のユニバーサル・アクセスを可能にし、全ての学生の円滑な修学を可能にし、学生生活を守るための相談活動や施策といえます。いずれも重要な課題であり、大学における受益者は学生であるという視点に立った整備充実を期待したいと思います。(A)
※(1)①-(a)「学生支援相談室の面談環境の改善」、(1)①-(c)「障がいを持つ学生への支援体制の拡充」の第三者評価(案)のコメントと重複
- ・先進事例から学んで、体制を整えようという動きは評価できます。(B)
- ・他大学の状況を踏まえて、状況のカウンセラー、精神科医の常勤などの対応の可能性については、指摘事項にあるようにぜひ前倒しで検討を進めることが期待されます。(C)
- ・他大学に負けない体制整備が望まれます。(E)
- ・最終目標実現の設定時期が遅くないかの検討が期待されます。(F)
- ・発達障害のある学生への対応は緊急の課題と思われるので、必要性を早くセンター連絡会、評議会に早く提案することが必要と思われる。(G)
- ・今後、具体的な根拠となるデータ等をもとにして目標と計画を設定することが期待されます。(H)

主管部局	学生活動支援機構 (総合支援センター)	担当部局	学生活動支援機構 (総合支援センター)
------	------------------------	------	------------------------

【(1)総合的な学生活動支援の拡充:①学生相談や発達障がい、障がいを持つ学生への総合的な支援体制の拡充・整備】

(タイトル)
①-(c) 障がいを持つ学生への支援体制の拡充

(狙い内容)
2016年度より施行される差別解消法に対応するため、2015年12月に策定予定の基本方針に従い、学生のニーズに合った支援内容を検証・対応を行う。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

現在支援を行っている支援内容に加え、学生のニーズに応じられるよう、コーディネータをはじめ職員への新たな知識などの資質向上及び新たな支援内容の検討を行い、支援体制を検討・実施を行う。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	障がい学生の求める新たな支援を検討・導入する。ただし、導入した支援内容については、検証を行い不安要素を改善を行う。ただ、改善などは常に行う必要があるため、常に新たな支援についての導入・改善が必要である。	評価尺度	A: 新たな支援を導入及び不安要素の改善 B: 本学における新たな支援を検証 C: 新たな支援の情報収集及び研修などの参加 D: 現状のまま	変更有無 有(無)
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A: B: C: D:	

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)		C	B	B	A	A	A	A	
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D <実績>	C	実績	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> B					
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> C		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 新たな支援を検討及び検証を行った					

【2016年度の進捗状況について】

2016年度においては、新たな支援(遠隔によるパソコンテイク)を導入するため試験的導入を行い、検証を行った。今後は新たな支援の正式導入に向け検証を重ねていく予定である。また、他大学の支援状況を確認するため、積極的に研修等に参加している。また、行動計画については1年前倒し、かつ研修を通じて、その他の新たな支援導入を行えるよう課全体への報告を義務付けた。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:
②今後必要な取組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年2月6日公示

- ・(1)は、大学のユニバーサル・アクセスを可能にし、全ての学生の円滑な修学を可能にし、学生生活を守るための相談活動や施策といえます。いずれも重要な課題であり、大学における受益者は学生であるという視点に立った整備充実を期待したいと思います。(A)
※(1)①-(b)「学生による自傷他害などの緊急事態への対応及び多様化する発達障がいのある学生への対応」、(1)①-(c)「障がいを持つ学生への支援体制の拡充」の第三者評価(案)のコメントと重複
- ・障害のある学生のニーズは個々別々です。案ずるより、入学時点で個々のニーズを突き止め、ニーズに応じて対策を立てるしかないのではないのでしょうか。(B)
- ・障がいを持つ学生に対しての新たな支援の試行、検証を行ったりするなど、積極的に施策を実施している点は評価されます。(C)
- ・今後、目標値の設定などの工夫が望まれます。(E)
- ・「1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)」での評価指標がやや抽象的であり、遅くとも情報収集がある程度できた段階で、もう少し具体的な支援策についての導入・実施目標を再設定することが期待されます。(F)
- ・障害者への合理的配慮が努力義務となったことから、具体的な施策を実施することが期待されます。(H)

【(1)総合的な学生生活支援の拡充:②安全・安心で快適な学生生活を送ることができる環境の整備】

(タイトル)
②-(a) 総合的なキャンパス環境の整備・拡充

(狙い内容)

・総合的なキャンパス環境(学修環境、キャンパス整備、研究環境、情報環境、図書館等を含む)に関する目標、行動計画の策定は次年度以降行う。

1. 教育研究目標を実現する上

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

変更有無

評価指標	<変更時記入欄>	評価尺度	A : B : C : D :	有・無
	<変更時記入欄>		A : B : C : D :	

3. 年度毎の目標値

変更有無

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	
2015年度 (計画策定時)									有・無
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績>	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標>						
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績>	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標>						

【2016年度の進捗状況について】 ←

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

<評価専門委員・第三者評価結果(案)> 2017年2月6日公示

- ・市街地から離れたキャンパスは、勉学には適しているものの、地域社会との自然な交流機会は制限されているように感じます、また、学生と教職員が自由に集えるアゴラ(アテナイの学堂)を整備することもままならない環境事情も理解できます。しかし、総合的なキャンパス環境の整備・拡充について、本年度の確認シートには全く記載がなく、次年度以降に行動計画を策定するとされているだけでは、少しもの足りない印象を拭えません。施設・設備といったハード面の整備には相当の資金や条件整備に時間が掛かることは事実ですが、整備の基本的方向性すら示されていないのは、やはり問題だと思います。(A)
- ・次年度以降の総合的なキャンパス環境のグランドデザインの検討に期待します。(C)
- ・リスクマネジメントの観点からも具体的な取り組みを早期に実施いただきたい。(D)
- ・目標設定等の記載が2017年度以降ということですので、評価していません。(F)

主管部局	学生生活支援機構	担当部局	学生生活支援機構
			情報環境機構
			教務機構
			研究推進社会連携機構

【(1)総合的な学生生活支援の拡充:②安全・安心で快適な学生生活を送ることができる環境の整備】
 (タイトル)
 ②-(b) 学生のマナーやコンプライアンス意識の向上による安全・安心で快適な環境の推進
 (狙い内容)
 学内外において、他者に迷惑をかける・かけられないことがない学生生活を送ることができる環境を整える。まずは、迷惑をかけない学生を育てるための指導・育成が行える教職員を養成する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

学内でのルール・マナー違反行動に対して、全教職員が注意・指導する。
 学生自ら学生へのマナー向上を呼び掛ける。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	学内・学外における学生のルール・マナー違反行動の減少	評価尺度	A: 学外からの苦情件数が2014年度に比べて20%減少 B: 学外からの苦情件数が2014年度に比べて10%減少 C: 学外からの苦情件数が2014年度と同等 D: 学外からの苦情件数が2014年度より増加する。	変更有無 有(無)
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A: B: C: D:	

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)		D	D	C	C	B	B	A	
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D	<実績> C	実績	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> A					有(無)
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> 苦情件数 60件		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 苦情件数 84件 2016年9月時点					

【2016年度の進捗状況について】

学生委員会報告件数 2014年度89件、2015年度60件(苦情件数)
 学生への周知は苦情があるごとに教学ウェブで対応。マナー向上、法令遵守等の正課の科目設定ができないか、情報収集中。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → **はい**・いいえ
 <上記で「いいえ」を選んだ場合>
 ①理由:
 ②今後必要な取組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年2月6日公示

- ・ マナーやコンプライアンス意識の養成は、社会人になってから大変重要です。目標値の設定を明確にし、諸施策を充実することが望めます。(E)
- ・ 学内・学外における学生のルール・マナー違反が減少したことは望ましいと思われる。学生への情宣活動を実施し、このような成果が継続することが期待されます。(G)
- ・ 学生に対しては、個人の責任だけではなく、大学としての社会的責任にも直結することを、十分に理解してもらえるような方策が今後期待されます。(H)
- ・ 早急な対応が期待されます。(J)

主管部局	ハラスメント相談センター	担当部局	ハラスメント相談センター
			人事部
			教務機構

【(1)総合的な学生生活支援の拡充:②安全・安心で快適な学生生活を送ることができる環境の整備】

(タイトル)
②-(c)ハラスメントの防止及び解決

(狙い内容)
本学は、すべての構成員の生活上の安全を脅かすいかなる人権侵害、ハラスメントをも容認することなく、学生と教職員が個人として尊重され、人権を阻害されることなく就学及び就業できるよう、ハラスメントのないキャンパスを創る。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

すべての構成員の生活上の安全を脅かすいかなる人権侵害、ハラスメントをも容認することなく、学生と教職員が個人として尊重され、人権を阻害されることなく就学及び就業できるよう、ハラスメントの防止及び解決をめざす。

※↑上記の目標を設定した背景について記述してください。

本学は教育と研究を目的とする協同社会であり、キリスト教主義を基礎とした教育により、すべての構成員の尊厳と人権を尊重しあう姿勢を大切にしている。よって、すべての構成員の生活上の安全を脅かすいかなる人権侵害・ハラスメントも容認することなく、学生と教職員が個人として尊重され、人権を阻害されることなく就学及び就業できるよう、ハラスメントの防止及び解決に取り組んでいく。

2. 達成度評価

評価指標	研修会受講者(教職員・学生)のハラスメントに関する理解度	評価尺度	A : 75~100% B : 50~75% C : 25~50% D : 0~25%	変更有無
	<変更時記入欄> ※上記の評価指標を変更する場合は、こちらに変更内容をご記入ください。		<変更時記入欄> A : B : C : D :	

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2016年度 (計画策定時)			B	B	A	A	A	A	有・無
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績> —	目標 B	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標>					
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績> —		<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> 下記のとおり					

【2016年度の進捗状況について】 ←

研修会、事例検討会実施後にアンケートをとり、理解度を測っていく予定(10月以降)

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

※変更がない場合は、本欄は記入不要です。

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由: ※目標どおりに進まない要因を記述のこと。

②今後必要な取組み: ※上記の要因を解決するための具体的な取組みを記述のこと。

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年2月6日公示

- ・人権に関わる課題であるため、慎重に施策を推進することが求められますが、教職員、学生のハラスメントに対する理解度などの現状把握は検討の出発点となるデータとなるため、早期の調査実施が求められます。(C)
- ・実際のハラスメントの相談の対応やリスクマネジメントの取り組みなども指標化できるとなるとよい。仮にこれらの項目が達成できたとしても何かトラブルがあった場合には学外から批判を浴びることもあるため、より高い目標にチャレンジしてほしい。(D)
- ・ハラスメントの理解は、年度計画を待たず直ちに徹底されることが求められます。(E)
- ・「研修会受講者(教職員・学生)のハラスメントに関する理解度」をどのような手法で評価するのかについて「進捗状況」の中で説明することについての検討が期待されます。(F)
- ・アンケート結果の分析により、理解度の向上の施策の検討に期待します。(G)
- ・SDが教員も対象として義務化されることから、SDとしても位置付けられることが期待されます。(H)
- ・全構成員に具体的に周知されることが大切です。(J)

【(2)スポーツ・文化活動等と勉学の両立をめざす支援強化:①課外活動の教育的価値を踏まえた指導・育成・活動環境の整備・拡充と活性化】

(タイトル)
課外活動の教育的価値を踏まえた指導・育成・活動環境の整備・拡充と活性化

(狙い内容)
課外活動の教育的価値を踏まえた指導・育成・活動環境の整備・拡充と活性化を図るために、課外活動を行う学生(団体)が、自らコンプライアンスを徹底し、危機管理意識を高めるように指導、教育する。講演会や研修会の実施、定期的な連絡会を実施し、意見交換や情報共有を常に行える体制づくりを目指す。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

課外活動団体の指導体制に対する支援、課外活動団体所属学生への学修支援、活動環境整備による支援により、社会性と豊かな人間性を兼ね備えた人材が育成される。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	研修会参加団体数	評価尺度	A : 全総部、傘下団体(計83)	変更有無
	<変更時記入欄>		B : 体育会全傘下団体(42)、文化総部(35) C : 体育会全傘下団体(42) D :	
			<変更時記入欄>	有(無)
			A :	
			B :	
			C :	
			D :	

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)			C	C	C	B	B	A	有(無)
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D	<実績> D	実績	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> C					
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> 未実施		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 体育会のみ実施					

【2016年度の進捗状況について】

コンプライアンス研修会9月26日開催、体育会新旧幹部 210名参加。施策立案のため、体育会42部の主将・主務を対象としたヒアリングを実施、10月12日現在、33部にヒアリング済み。トレーニングルーム利用実績は9月までの半期で61,825名、体育館利用時間申請ベースで年間7490時間増「正課外教育を推進する体制」の構築については、学生活動支援機構の中に、2017年4月に担当者をおき、現状分析、問題点の洗い出しを行い準備を進める。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい・ いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年2月6日公示

- ・ 昨年も指摘した点ですが、勉学は正課で、自発的な学生の活動は正課外という古典的な位置づけは変わっていないように見受けられます。正課外活動を重視するならば、これが可能になる施設設備の整備や支援体制の強化を図ることは勿論、教育システム全体の中での位置づけを、もっと明確に示す必要があると思います。(A)
- ・ 課外活動の充実が学生生活の充実に大きな意味をもつものであり、環境整備および研修などの実施は非常に重要な活動としてその意義は評価されます。(C)
- ・ 目標4(1)「ハラスメントの防止及び解決」と同様に、学生や指導者の理解度を評価指標にすることの検討が期待されます。(F)
- ・ 課外活動に対する危機管理体制のより一層の充実が望まれます。(G)
- ・ 万一、不祥事等が生じた場合は、大学としての社会的責任も問われる可能性があることを、学生に十分に理解してもらえるような方策が期待されます。(H)

主管部局	ボランティア活動支援センター	担当部局	ボランティア活動支援センター 学生活動支援機構
------	----------------	------	----------------------------

【(2)スポーツ・文化活動等と勉学の両立をめざす支援強化:②ボランティア活動環境の整備と活性化】

(タイトル)
ボランティア活動環境の整備と活性化

(狙い内容)
関西学院を中心とするボランティア活動の活性化を進め、地域との開かれた関係を築くことによって、スクールモットー”Mastery for Service”を体現する世界市民の育成を図る。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

2016年度に設置予定の「ボランティア活動支援センター(仮称)」が中心となって、学生のボランティア活動環境を整備するとともに、学生等のボランティアに関する様々な活動を支援することで学院内におけるボランティア活動の活性化を促す。また、障がい者スポーツ支援の検討を行う。

<変更時記入欄>

2016年度に設置予定の「ボランティア活動支援センター(仮称)」が中心となって、学生のボランティア活動環境を整備するとともに、学生等のボランティアに関する様々な活動を支援することで学院内におけるボランティア活動の活性化を促す。

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

実情に合わせるため。(障がい者スポーツ支援に特化した取り組みは、ボランティア活動支援センターでは行っていない。)

2. 達成度評価

評価指標	・ボランティア活動支援センター(仮称)の設立状況 (2017年度以降については、ボランティア活動支援センター(仮称)設立以降に再設定) <変更時記入欄>	評価尺度	A:センターが設立、稼働する D:内容等の検討が継続される	変更有無
	① ボランティア活動支援センター(仮称)の設立状況 ② 支援室におけるボランティアのコーディネート人数		<変更時記入欄> A:①センターが設立、稼働する ②400以上 B:②300~399 C:②250~299 D:①内容等の検討が継続される ②200~249	

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度 (計画策定時)		D 活動内容、 業務内容等検討	A センター設立	—	—	—	—	—	①無 ②有
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績> ①:D ②:D	目標	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> ①:A ②:D	①:— ②:C	①:— ②:C	①:— ②:B	①:— ②:B	
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績> ①:— ②:212		<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> ①:下記のとおり ②:D(230)	①:— ②:260	①:— ②:290	①:— ②:340	①:— ②:380	

【2016年度の進捗状況について】

ボランティア活動支援センターの立ち上げが実施できた。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

当初目標であった、センターの立ち上げが実施できたため、新たな評価指標、評価尺度、年度毎の目標値等を設定した。

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか?	→	はい・いいえ
<上記で「いいえ」を選んだ場合>		
①理由:		
②今後必要な取組み:		

<評価専門委員・第三者評価結果(案)> 2017年2月6日公示

- ・ スクールモットーを体現するための重要な活動を支援しようというもので、とりわけ、ボランティア活動に対する積極的な支援のためのボランティア活動支援センターの設置は、同活動の教育的な価値を重んじている貴学の特徴の反映として、大いに評価できます。(A)
- ・ 順調な進展がみられます。一層のご努力を期待します。(B)
- ・ 2016年度にボランティア活動支援センターが設立されたということで、今後は具体的な活動の充実が期待されます。(C)
- ・ ボランティアの募集数や実際のボランティアの参加数なども今後指標化を検討できるとなおよい。(D)
- ・ ボランティア活動支援センターが設立され、前向きに取り組んでいることは評価できます。(E)
- ・ センターによるコーディネート人数の設定目標の妥当性についての説明が必要かどうかの検討が期待される。(F)
- ・ ボランティア活動支援センターが設立されましたので、その活動が期待されます。(G)
- ・ 具体的な実施が今後期待されます。(H)

【(3)奨学金制度の拡充】

(タイトル)
奨学金事業を通じ、模範となる学生を顕彰し、また経済的支援を必要とする学生を支援することにより、学生の育成を行う。

(狙い内容)
奨学金事業を通じ、模範となる学生を顕彰し、学生へのインセンティブとする。また経済的支援を必要とする学生を支援することにより、安心して学生生活を送ることができるようにする。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

- ・奨学金制度を改正する。
- ・学部支給奨学金制度を改正し、SGH・SSH奨学金を設置する。
- ・大学院支給奨学金制度を改正し、一部の後期課程学生の学費を実質無償化する。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学金制度の改正 ・学部奨学金制度の改正およびSGH,SSH入試者対応の奨学金の設置 ・大学院奨学金制度の改正(後期課程学生の一部は実質学費無償となる) 	評価尺度	A : 新奨学金制度を実施した B : 新奨学金制度の規程を制定した C : 制度について検討した D : 制度の改正ができない	変更有無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄>	有(無)

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)		C 新奨学金制度検討	B 新奨学金制度規程改正	A 新奨学金制度実施					有(無)
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D	<実績> C	実績	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> C					
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> 検討を開始した		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> SGH/SSHは規程化まで行った					

【2016年度の進捗状況について】 ← SGU・SGH対象の奨学金を新たに設置した。大学院の奨学金については、大学院施策全体の中での検討が必要で、現在大学院専門の部局の設置を検討中である。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → **はい**・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年2月6日公示

- ・(3)は、SGH・SSH入試による学生を対象にした奨学金制度と主に博士課程後期の大学院生を対象とした学内奨学金制度のようですが、詳細については検討段階であり、この奨学金制度の継続性・安定性については、評価できる段階にはありません。(A)
- ・新規の奨学金が議論されていますが、規模についても議論されることが期待されます。(B)
- ・大学院生については経済的な支援が社会的な問題にもなっており、現状を踏まえた制度の検討を進めることが期待されます。(C)
- ・奨学金制度の充実に向けて、具体的な取り組みを期待したい。(D)
- ・目標の評価尺度は、できるだけ数値化することが望まれます。奨学金の指標は、申請者でみるのか、受給者でみるのか、検討が望まれます。(E)
- ・奨学金制度の効果について検証できる評価指標の設定を検討することが期待されます。(F)
- ・大学院奨学金制度のより一層の充実が求められます。(G)
- ・学生のニーズに寄り添った制度とすることが大切です。(J)

主管部局	キャリアセンター	担当部局	キャリアセンター 教務機構
------	----------	------	------------------

【(4)個性・能力にあったキャリア教育と就職支援の充実:①学生の満足度向上】

(タイトル)
個性・能力にあったキャリア教育と就職支援の充実により、就職を希望する学生が納得、満足し、かつ高い就職実績につながる支援を強化、充実する。

(狙い内容)
進路決定は、学生が悩みながら、不安を抱え、紆余曲折しながら自ら行うものである。決定までには多くの課題を抱え、結果的に第一希望が叶うことばかりではない。しかしながら、自身や自身の活動を振り返り、最終的に納得し、満足できるよう学生を支援することがキャリアセンターの最も重要な役割である。満足度は就職実績にも関係するので、評価指標は、内定企業への満足度、就職率等とする。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

学生が、キャリア教育並びに就職活動の結果に高い満足度を示し続ける。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	①学生の「満足度」《内定企業に対する満足度》 「非常に満足」「満足」「やや満足」「普通」「やや不満」「不満」「おおいに不満」の7段階の評価の内、「非常に満足」「満足」の割合 ②就職を希望する学生が就職できる＝「就職率」《就職決定者数÷就職希望者数》 ③戦略的な指標のため非公表	評価尺度	A:それぞれの目標値を上回る D:それぞれの目標値を下回る	変更有無 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
	<変更時記入欄> ※上記の評価指標を変更する場合は、こちらに変更内容をご記入ください。 ①学生の「満足度」《内定企業に対する満足度》 「非常に満足」「満足」「やや満足」「普通」「やや不満」「不満」「おおいに不満」の7段階の評価の内、「非常に満足」「満足」の割合 ②就職を希望する学生が就職できる割合＝「就職率」《就職決定者数÷就職希望者数》 ③戦略的な指標のため非公表		<変更時記入欄> A: 3指標全てにおいて目標値を上回る B: 2指標全において目標値を上回る C: 1指標のみ目標値を上回る D: 3指標すべてにおいて目標値を下回る	

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度 (計画策定時)	①	86.2%	90.0%以上	90.0%以上	90.0%以上	90.0%以上	90.0%以上	90.0%以上	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
	②	98.5%	96.0%以上	96.0%以上	96.0%以上	96.0%以上	96.0%以上	96.0%以上	
	③	27.6%	27.5%以上	28.0%以上	28.5%以上	29.0%以上	29.5%以上	30.0%以上	
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績> -	目標	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> B					<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績> -		<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> 下記のとおり	③28.5%以上	③29.5%以上	③30.5%以上	③31.5%以上	

【2016年度の進捗状況について】

2016年度の結果は2017年7月にしか判明しないが、各種プログラムの進捗状況と内定状況を勘案すると順調に推移していると判断する。特に毎年、学生達から対策要望が多い筆記試験については、2016年度は一番参加人数が多い第1回キャリアガイダンス内で実施し(3500名以上が参加)、早期対策を促した。筆記試験は、面接選考に繋がる関門であるため、満足度向上に向けては、重要な要因であると捉えている。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

評価指標の③については、表現が正確ではなかった。評価尺度については、複数の評価指標に対する尺度が設定されていなかった。

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか?	→	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ
<上記で「いいえ」を選んだ場合>		
①理由:		
②今後必要な取組み:		

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年2月6日公示

- ・(4)のキャリア教育は、学生の満足度、就職率などを成果指標として定め、キャリア・ガイダンスを含めた早期の対策に力を注いでいる点は評価できます。キャリア・ガイダンスへの学生の関心の高さは、学生への進路保証がいかに大学にとって重要であるかを物語るものであり、ひいては、貴学のブランド力を高めることにも繋がるものです。引き続き、一層の取組を期待します。(A)
- ・98%という就職率の高さに驚きました。(B)
- ・2016年度の就職活動の結果は2017年7月にしか判明しないということであると、前年度レビューを記載するなど、評価のサイクルについて考慮することが求められます。(C)
- ・有意義なキャリア教育支援プログラムの開発が望まれます。(G)